

Title	朝鮮半島安全保障構造の形成と展開
Sub Title	Formation and development of the security structure on the Korean peninsula
Author	西野, 純也(Nishino, Junya)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018. )
JaLC DOI	
Abstract	<p>申請書に記した通り、本研究の目的は1948年の南北朝鮮分断国家の誕生と、1950 - 53年の朝鮮戦争を経て固定化され現在にいたる朝鮮半島の分断体制 (= 停戦協定体制) について、安全保障の側面に焦点をあわせつつ、「朝鮮半島安全保障構造の形成と展開」を、主に韓国、北朝鮮、米国、中国、日本等の一次史料を用いて解明することである。停戦体制の「持続」として静的に語られることの多い朝鮮半島の秩序が、軍事安全保障の面では大きく「変容」してきたことを実証的に明らかにすることを目指している。2018年度は以下の論文、論考を通じて研究成果の一部を発表することができた。</p> <p>第1に、「朝鮮半島と太平洋軍」土屋大洋編著『アメリカ太平洋軍の研究--インド・太平洋の安全保障』千倉書房、2018年、105-120頁では、朝鮮半島の安全保障構造の形成と特質を、米韓連合防衛体制の形成とアメリカ太平洋軍の役割という観点から明らかにした。</p> <p>第2に、「盧武鉉政権期の日韓関係--韓国の新しい秩序認識の台頭」慶應義塾大学法学研究会編『法学研究』第92巻第1号(2019年1月)、97-116頁では、2000年代以降の韓国の安全保障構造に対する認識の変容を、盧武鉉政権期の対日政策および安全保障政策に焦点を合わせて分析した。</p> <p>第3に、「米朝首脳会談と非核化への展望」『外交』50号(2018年7・8月号)、12-19頁では、2018年からの朝鮮半島情勢の変化が停戦協定体制や米韓連合防衛体制に及ぼす影響を与えるのかについて論じた。</p> <p>そして第4に「朝鮮半島の新秩序構築に積極的な関与を」『中央公論』2018年10月号、74-82頁では、変容しつつある朝鮮半島の安全保障構造が日本の安全保障に与える影響とその対応について考察した。</p> <p>This research aims at analyzing the formation and development of the security structure on the Korean peninsula since 1948. Four articles published in 2018 successfully revealed part of the achievement of this research.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180141">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180141</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	法学部	職名	教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	西野 純也	氏名 (英語)	Junya Nishino		
研究課題 (日本語)						
朝鮮半島安全保障構造の形成と展開						
研究課題 (英訳)						
Formation and development of the security structure on the Korean peninsula						
1. 研究成果実績の概要						
<p>申請書に記した通り、本研究の目的は1948年の南北朝鮮分断国家の誕生と、1950-53年の朝鮮戦争を経て固定化され現在にいたる朝鮮半島の分断体制(=停戦協定体制)について、安全保障の側面に焦点をあわせつつ、「朝鮮半島安全保障構造の形成と展開」を、主に韓国、北朝鮮、米国、中国、日本等の一次史料を用いて解明することである。停戦体制の「持続」として静的に語られることの多い朝鮮半島の秩序が、軍事安全保障の面では大きく「変容」してきたことを実証的に明らかにすることを目指している。2018年度は以下の論文、論考を通じて研究成果の一部を発表することができた。</p> <p>第1に、「朝鮮半島と太平洋軍」土屋大洋編著『アメリカ太平洋軍の研究——インド・太平洋の安全保障』千倉書房、2018年、105—120頁では、朝鮮半島の安全保障構造の形成と特質を、米韓連合防衛体制の形成とアメリカ太平洋軍の役割という観点から明らかにした。</p> <p>第2に、「盧武鉉政権期の日韓関係——韓国の新しい秩序認識の台頭」慶應義塾大学法学研究会編『法学研究』第92巻第1号(2019年1月)、97—116頁では、2000年代以降の韓国の安全保障構造に対する認識の変容を、盧武鉉政権期の対日政策および安全保障政策に焦点を合わせて分析した。</p> <p>第3に、「米朝首脳会談と非核化への展望」『外交』50号(2018年7・8月号)、12—19頁では、2018年からの朝鮮半島情勢の変化が停戦協定体制や米韓連合防衛体制に及ぼす影響を与えるのかについて論じた。</p> <p>そして第4に「朝鮮半島の新秩序構築に積極的な関与を」『中央公論』2018年10月号、74—82頁では、変容しつつある朝鮮半島の安全保障構造が日本の安全保障に与える影響とその対応について考察した。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
This research aims at analyzing the formation and development of the security structure on the Korean peninsula since 1948. Four articles published in 2018 successfully revealed part of the achievement of this research.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
西野純也	朝鮮半島と太平洋軍	土屋大洋編著『アメリカ太平洋軍の研究——インド・太平洋の安全保障』千倉書房	2018年			
西野純也	盧武鉉政権期の日韓関係——韓国の新しい秩序認識の台頭	慶應義塾大学法学研究会編『法学研究』第92巻第1号	2019年1月			
西野純也	米朝首脳会談と非核化への展望	『外交』50号	2018年7・8月			
西野純也	朝鮮半島の新秩序構築に積極的な関与を	『中央公論』2018年10月号	2018年10月			